

i 基本情報



水のさんぽ路

ゆっくり歩けば3時間。
せかせか歩けば2時間半。
津和野をめぐる水路を、巡る。
疲れたら、歴史ある酒蔵でちょっと一休み。
鯉と、菖蒲と、水の道。
約3kmの津和野さんぽ道・水のさんぽ路です。



平成25年2月1日発行
製作・運営：つわ乃燈火会
編集・発行：津和野町営業課
お問い合わせ
●津和野町役場営業課（平日のみ）
TEL：0856-74-0092 E-Mail：eigyoutown.tsuwano.lg.jp
住所：〒699-5292 島根県鹿足郡津和野町日原54-25
●一般社団法人津和野町観光協会（土・日・祝日）
TEL：0856-72-1771

（無断転載・複製禁止）

津和野の水路 悠々と泳ぐ鯉
一人の大男の悩みの種よりはじまりし。

山上の櫓から城下町を眺め、一人の大男が頭を抱えていた。
「このように屋敷が密集しては、火事が起きた時にどうしようもない」
彼が眺める城下町では先日小火騒ぎがあったばかりである。
「殿、防火用水として、町中に水路を整備するのはいかがでしょう」
山々に囲まれる赤茶色の町を眺める彼に向かって、初老の男性が語る。
「ふん。そうだな。すぐに取りかかれ」
大男は、鼻をならし、仰々しく命令した。

この男こそが、津和野に現在も残る水路を整備した、坂崎（宇喜多）直盛である。
彼は、戦国時代に備前地域で台頭した宇喜多家の「門であったが、関ヶ原の合戦の功などにより時の將軍徳川家康から「坂崎」の姓を賜り、以後坂崎姓を名乗るようになる。
戦国時代に栄華を誇り、合戦で功を挙げる程の人物であるだけに、強気で執念深く、最後まで意地を貫くという性格だったようだ。

そんな彼が、武士から大名となり、強大なリーダーシップを発揮し津和野に水路を設けた。

水路工事が終わろうとする頃、一人の町人が直盛に陳情していた。
「お殿様、水路を整備していただきありがとうございます。町から火事が減ったのはありがたいのですが、代わりに蚊が増えています。最近では、蚊が原因で病気もはやっていっています。なんとかして下さいませ」

火事が収まれば、次は衛生問題。直盛は次から次へと起こる問題に頭を抱えていた。
「殿、ならば、水路に鯉を放すというのは、いかがでしょう」
水路整備を進言した初老の男性は言う。
「そうか。わかつたぞ、その鯉に蚊の幼虫を食わせるという算段じゃな」
直盛は心無しか嬉しそうに、まるで子どもがはしゃぐように答えた。

こうして、水路を整備し、鯉を放つことで住民の生活環境向上のために尽力した彼であったが、度重なる喧嘩沙汰に加え、將軍家に対する謀叛により生涯を終えることになる。これが、いわゆる千姫事件であるが、彼はこの一件において、切腹とも他殺とも判別し難い、なんとも悲劇的な幕引きで人生を終えてしまったのである。

彼の津和野での治世はたった十六年でした。その間に現在の津和野の情景の基礎が育まれたといっても過言では無いでしょう。
津和野のまちを巡る水路を眺めながら、かつてこの地に生きた意地っ張り大名に想いを馳せるのも興ではないでしょうか。

【永明寺にある彼のお墓は、徳川家に配慮して「坂崎」ではなく「坂井」になったとか】これは津和野にまつわる創作のお話です。

さんぽ路3つの約束

スタートからゴールまでスタスタ歩いては、津和野の魅力は半分しか見えません。
津和野さんぽ路を目一杯楽しんでもらうため、3つの約束を作りました。
この3つの約束を守って、津和野のまちを満喫してくださいね。

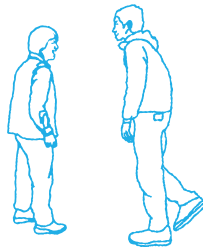
1. 遠回りすること

目的地が明確であっても、とにかく遠回りをしましょう。
ふと立ち止まってみるのもいいかも。
歩くことを、楽しんでください！



2. 挨拶すること

さんぽ道の基本姿勢！
赤ちゃんからおじいちゃん、遊びにきた人にも住んでいる人にも、出会う人全員に挨拶をしましょう。
それだけで、楽しいさんぽになります。



3. 案内人を探すこと

あなたが手に取った「津和野さんぽ路」の案内人を探してみてください。
案内人が、紙面では紹介しきれなかったストーリーやスポットを教えてください。



? 津和野さんぽ路とは

「津和野の楽しさは、津和野に住む私たちが一番知っている！」
そんな想いから生まれたのが、この「津和野さんぽ路」です。
津和野の魅力とたくさん出会ってもらえるように、私たちひとりひとりが案内人として、あなたに津和野の町を紹介します。
案内人ごとに、いろいろな「テーマ」があります。
あなたが気になったテーマや、一緒に歩きたいと思う案内人のマップを使って、津和野で最高の時間を過ごしてもらえることを願っています。

津和野燈火会より

👉さんぽ路の案内人



案内人プロフィール
石川 葉子
年齢：21歳
津和野歴：2012-2013に役場のインターン生でした。
私はココにいます：津和野町役場にいました。
好きなこと：自転車旅行
津和野から博多まで200kmの道のりを、一日で自転車で走り切りました。

👉 津和野のここが好き！

きらきらと流れる水が路が、津和野を訪れて一番心惹かれました。水の流れをたどっていくと、山から町へ流れる水路、家の中を流れる水路、鯉の泳ぐ水路、目には見えない水路…まるで血管のように津和野を巡っています。水路を横目に歩いていくと、細い路地に迷いこんで、まるで探検気分！このコースの中で出会う鯉は500匹以上。なかには人の顔をした鯉もいるので、探してみるのも楽しいです。毎年何十人もの人が水路に落ちています。もし落ちている人がいたら、助けてあげてくださいね。



水のせせらぎ、歴史のおと。

こんな人におすすめ！

津和野の歴史を知りたい！
町の日常風景を楽しみたい！

Pickup!

9 津和野の酒蔵

——津和野の「水」を味わう



津和野は盆地で寒暖の差が激しく、水もとてもきれいなので酒造りが盛ん。酒屋は湧き水を酒蔵に引き込んでいます。石垣に当時の名残が残る幼花園(教会のとなりの幼稚園)も、昔は酒屋でした。酒造と聞くとちょっと堅苦しいイメージがありますが、お酒以外にもお客さんを楽しんでもらおうと、様々な工夫をしています。華泉酒造には蔵の2階にギャラリーがあり、季節限定でバラ展や写真展などの展示を行っています。若杜氏の潮春光(うしおはるみつ)さんはメダカ展をきっかけにメダカを飼いはじめたとか。そんな若杜氏に会えると、酒蔵を案内してもらえます!大きい釜が並び、ふんわりと日本酒の香りがする酒蔵。お酒に弱い人は、酔わないように気をつけてくださいね。

7 殿町

——掘割と鯉の通り

昔は家老たちが住んでいたので、「殿」町と名付けられました。ここがかの有名な「大きな」鯉がいるところ。「メタボリック」「肥え過ぎ」というと、津和野の年配の方から怒られるそうなので、みなさんにはこっそり注意。



8 本町

——目に見えない水路

商家が集まる通り。水路に落ちる人が多かったため、水路にはふたがされました。雪が降るとふたを外し、水路に雪を落とします。本町は津和野の中で、一番早く雪かきが終わる優秀な通りだそう。本町と魚町が交わるところで、良く山を眺めているおじさんは、気さくな私のお茶飲み友達。見かけたら声をかけてみてください。



Pickup!

3 鯉の米屋

——水路の終着点



コーラや駄菓子も売っているお米屋さん。町中を通ってきた水路が川に流れ込む終着点の一つです。店の奥には鯉のいる中庭があり、お店の人に話しかけると、通り抜けることができます。えさをあげると一斉に暴れだす鯉は一見の価値あり。驚舞保存会会長のおじいちゃん、温泉好きのおばあちゃん、デザイナーのお父さん、よさこいダンサーのお母さんなど、個性豊かな家族が暖かく迎えてくれ、昼夜を問わず津和野人が集まってきます。津和野ビギナーは思い切って話しかけてみることを。観光案内所とは違った、最新の情報を教えてもらえますよ!

鯉の米屋の店内でちょっと一休み。レトロな瓶コーラを店内で飲むことができます。初めて見た人は、ふたの開け方がわからないとか…。



5 水路と生活

——水と生きる町、津和野

水路は生活のいろいろな場面で大活躍! 野菜を洗ったり、スイカを冷やしたり。でも、ひとたび上流の水路が詰まると下流は大騒ぎ。水位が下がって、鯉が死んでしまう! この時は、町のみんなが総出で復旧作業を行います。

6 町民センター

——鯉の留学

水路でうまれた鯉は、親鯉に食べられないように救助され、町内の田んぼへ留学に出されます。田んぼの荒波にもまれ少し大きくなったら、町民センター内の池で大切に育てられ、3~4年後には水路に戻ります。私も1年間、津和野に留学中。人も鯉も、余所に行くことは大事ですね。



Pickup!

1 永明寺

——水路の父が眠る寺



水の出所を探して歩いていくと、水路を作った坂崎出羽守(さかざきでわのかみ)のお墓がある永明寺に着きます。永明寺は1420年に津和野城主・吉見頼弘によって建てられました。坂崎出羽守のお墓だけでなく、明治の文豪・森鷗外のお墓もあります。坂崎出羽守のお墓は本堂の裏の階段を上ったところにあります。私は趣味の自転車で鍛えた足で上りますが、体力に自信の無い方は無理をしないように。本堂の中にあるお庭を眺めて、ちょっと休憩するのもいいですよ。



2 野草

——水辺に生える食材

スタート付近では蒔(ふき)がとれます。蒔はやわらかいときにとり、細かく刻んで油で炒め、醤油・砂糖・みりんで味付け。最後は水気を完全に飛ばすくらい炒めるのが津和野流。これは春に山菜を取りにでかけたとき、津和野のおばあちゃんが教えてくれた簡単にできる一品。ご飯に混ぜて食べると、ぶちうまい!(とってもおいしい!)

4 万町

——隠れたデートスポット

津和野の裏道、万町。昔はいろんな職人さんが仕事をしていたので「万」町と名付けられました。今はとても静かな道。酒屋さんの裏側や、水路の水を池に引き込んで鯉を飼っている様子を見ることができます。津和野にデートに来たら、あえてこの道を通って欲しい。観光客から離れて、人目を気にせずいちゃできますよ。

